

(東京都公立学校教職員組合墨田支部)

連絡先メールアドレス：ar5t-kym@asahi-net.or.jp ホームページ：<http://www.asahi-net.or.jp/~ar5t-kym>

東京教組ホームページ：<https://tokyokyouso.org> Twitter でも時々情報発信しています！

業績評価本人開示請求をしましょう！

業績評価の本人開示制度は、東京教組が人事考課制度導入後もその廃止を求め抜本的な見直しを要求し続けた中で、2007年に実施された制度です。地区によって異なりますが、3月初旬頃から開示請求期間となります。開示は希望者だけですが、毎年多くの方が開示希望を出し、問題のある評価には苦情の申し立てを行なっています。その結果、評価の修正が行われた事例もあります。校長が恣意的評価をつけていないか確認する意味でも、できるだけ多くの人で業績評価の開示を求めていきましょう。「定期評定本人開示請求書」に必要事項を記入の上、必ず本人が所属長に提出するようになっています。

「業績評価」制度の導入は、教職員全体の協力体制を前提にして行われるべき学校の教育活動を破壊し、上意下達の学校を作り教育職員のモラルの低下を招くことが、これまでの状況からも明らかになっています。

また、都教委も人事考課制度の信頼性、公正性、透明性、納得性を高めるために「評価者への研修」「評価結果の本人開示」「苦情処理制度」をおこなっていることから明らかなように、業績評価は本人だけでなく職場全体が納得できるものでなければなりません。世田谷の組合員の業績評価裁判では、2011年10月26日の東京高裁判決において、賃金上の不利益を伴う以上は「C以下の評価をするについては、その根拠として相当な事実が存在することが必要であり、その存在について主張立証責任を負うと解すべきである」とはっきりと評価者側にも立証責任を負わせる勝訴判決が出され確定しています。一昨年度以降、新型コロナウイルスへの対応を全職員で行ってきました。協力・協働が求められる学校に差別分断の成績主義を持ち込むことは、百害あって一利なしと言わざるをえません。

武蔵野の戦跡をめぐる平和の旅(11/27)の報告

私は参加できませんでしたが、フィールドワークの動画を見ました。参加者からの報告記事も読んだのでお伝えします。当日は、組合員でない方も含めて若い方も多く参加したとのこと。東京教組書記長の武捨さんのガイドで、多摩地域の戦跡をバスで巡りました。最初に訪れたのは調布掩体壕。掩体壕というのは軍用機などを敵の攻撃から隠すために造られたコンクリート施設で、ここだけでなく、日本各地にあります。続いて、武蔵野浄水場近くの延命寺、源正寺、武蔵野中央公園、東大和南公園内にある日立航空機立川工場変電所跡などを訪れました。空襲の被害の事実を伝える碑文や空襲で亡く



銃弾の跡がたくさん残る
日立航空機立川工場変電所跡 ←

なった方々を慰霊する戦災供養地蔵尊、爆撃の凄まじさが分かる被弾した変電所跡などを見学しました。最後は、東京陸軍少年飛行兵学校についての資料が多く置かれている武蔵村山市立歴史民俗資料館分館を訪れたそうです。兵学校で学んだ青年たちは特攻隊として戦地に送られていきました。参加者からは、「身近な地域のことに初めて知ることばかりでとても勉強になりました。」「身近にこんなに戦争に関するものが残されているなんて、驚きました。今後は平和教育の観点をもって色々なものを見ていきたいと思います。早速、自分の学校の周りを新しい目で見直してみます」と感想をいただき実りある学習となったようです。

◇ フィールドワークの動画は東京教組ホームページでご覧いただけます！

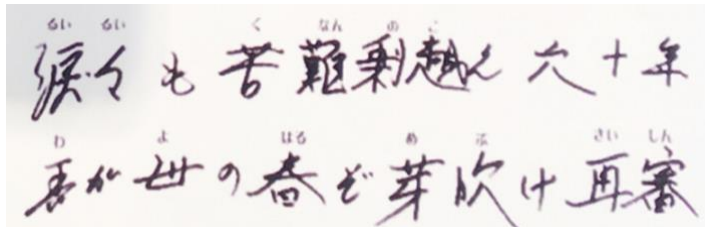
東京都公立学校教職員組合(東京教組)は、東京都の公立学校(幼稚園・小学校・中学校)で働く教職員の組合です。加入申込は、「東京教組ホームページ」→「加入申込」からできます。

部落差別に基づく冤罪事件・狭山事件の学習会&現地調査(1/15)の報告

1月15日(日) 部落解放同盟墨田支部と墨田部落解放区民共闘会議主催の狭山現地調査に参加しました。

現地調査の前に、石川さんが獄中にある時に書いた短歌について、石川さんにインタビューし、「短歌に託して」という連載記事を解放新聞・埼玉版に書かれている古河さんからお話を伺いました。ご両親への思い、「死刑」判決や「無期懲役」判決を受けた時のこと、死刑囚としての日々、文字を覚えてくれた看守さん、優しい短歌の先生、逮捕の4ヶ月前に亡くなった彼女のこと、「石川の兄ちゃん頑張れ」という手紙に励まされたことなど、あまり聞くことができない貴重なお話を伺いました。石川さんが、獄中生活をどんな思いで過ごしてきたのか、どんなことに救われたのか、その思いの一端を知ることができました。また、生まれてから逮捕に至るまでの石川さんの生活史についてのお話も伺いました。石川さんは、本当に幼い頃から色んなところで働き続けてきたんだと知りました。現地調査では、石川一雄さんと早智子さんが、元気にあいさつをしてくださいました。解放同盟女性部の方々からは思いのこもったメッセージや豚革で作ったかわいいうさぎのキーホルダーが、解放共闘のメンバーからは、石川さんご夫妻の絵がプレゼントされました。その後、石川さんが強制された嘘の「自白」に基づくルートを歩きました。石川さんの嘘の自白がいかにより得ないかが、現地に行くことではっきりと分かりました。

今回はじめて現地調査に参加した方々も多くおり、参加した教員からは「改めて捜査や裁判のでたらめさを実感しました」「今回現地を訪ねて、あまりにも不自然な面が多く、『法治国家』というなら一刻も早く再審を開始すべきだと強く思いました」「今回のフィールドワークは自白した道を歩きました。実際に歩いてみると、自白は嘘だったと言うことがよくわかります。距離とか、歩く時間とか、聞こえてくるものとか、見えたものとか、どれもが現実とあっていませんでした」「差別の問題は昔も今も続いています。私たち教員はアンテナを高くして差別の問題と向き合わなければいけないと思いました。2023年こそ再審を開始し冤罪を晴らしていくために支援していきましょうと改めて思いました」という感想をいただきました。一雄さんは、子どもと教師たちにたくさん手紙を書いた。それはなぜかという、一雄さんのような人を生み出さないようにして欲しいという願いからなんですというお話を早智子さんから伺いました。部落差別によって教育を受けられず働き続けなければならなかった石川一雄さん。教育を受けられていれば、騙されずにすんだらと思う。教員が狭山事件を学ぶことはとても大切なことだと改めて感じました。



石川一雄さんが1月15日に披露した短歌。
裁判所に一刻も早く再審を開始させましょう！

《狭山事件の再審を求めるネット署名にご協力を！》 25万人が署名しました。

狭山事件は、部落差別に基づく冤罪事件です。事件のことを知れば、高校生でも冤罪事件だとわかると思います。狭山事件の第三次再審は弁護団が事実調べ請求書を提出したことによって、最大の正念場を迎えています。東京高裁が事実調べの実施を決断するかどうかは、ひとえに広範な世論の広がりにかかっています。署名を広めてください！ [ネット署名はこちらから→](#)



～第47次日朝教育交流の集い～

組合員でなくても参加OK。参加希望者は、東京教組まで ttu@tokyokyouso.org
とき 2月11日(土) 9時40分～15時30分(受付開始9時30分) 予定
ところ 東京朝鮮第三初級学校 板橋区大山西町67-1 ※昼食・資料代1000円

授業参観や芸術公演などプログラムは盛りだくさんです。
「民族教育の現状と課題」についての講演もあります！

☆ <第五ハッキョ応援プロジェクト> 朝鮮第五初中級学校 学芸会
☆ 2月26日(日)13時半～15時半 曳舟文化センター(東武・京成曳舟駅すぐ)
☆ ～みんなで参加して曳舟文化センターを満席にしましょう～
☆ ※入場券 2000円 参加希望者は、墨田区教組までご連絡ください。

